

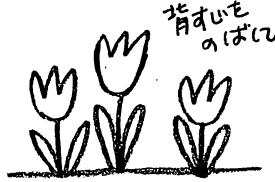
はるこだより

病児保育所 はるこ
2016春号

2016.4.1
七飯町本町6丁目7-42

はるこじもクリニク隣

はるこ ☎ 0138-65-1500



あのとほうにくねるくらいの量の雪が春のおひさまの光でみるみるうちに溶けていました。
毎年同じ光景のはずなのに、みんなでとても不思議で、自然の偉大さを感じます。

雪や氷の下から顔出した草たちがみんなと緑色でいらっしゃるものとても不思議です。

新しい春、はるこも新年度を迎えます。地域のみなさまへ新しいつながり病児保育所であります。
どうぞよろしくお願いします。

①はるこ ある日のスタート ♪ 日常のひとまをよ伝えます

「みかわ いいじゅん」

遊びかご配屋さんへと行ったとき、「宅配便に手紙を書くことをひらめいた Aちゃん(5才)。「どうしようかな?」としばらく考えたあと「どうだ!」と言って男の子と女の子が手つないで絵を描きました。そこには Aちゃんは言いました。「みかわ いいじゅん」

根っこ

1歳の Cちゃんは、台に上って真剣に手を洗っています。水の感触を確かめるようにじっくりと。そして終ると手振り向きハッピーチタチで保育の胸に飛び込んでしまって。その時、「笑顔!!! 台の上から手離して」全身を預けられるのは、Cちゃんには「信頼」という目に見えない「根っこ」かもしれません。うそ、と Cちゃんがキラキラ光ってみえました。

② カルタ

ながら、カルタの文字にあわせて文章を読みながらなりました。Eさん(6才)の発想はユーモラスで、とても豊か。たとえば――
「(+) おいあさんーとでひでいいおかあ」
「(+) ういきかけてあかんあきる」

1歳の Gさんよりも大きなお兄ちゃんが2人、各自お迎えが来て先に帰るとき、玄関に来たGさんは深々と(ぱく)頭を下げておじぎして見送ってくれたのです。

こんなかに樂しい♪

遊びの途中(10時ごろ)「おなかすいたから早く(お弁当)食べたい」と言っていた Bちゃん(5才)。遊びのあいだみで保育士が「そろそろ食べようか?」と聞くと「え?! やうー!」

「だから今こなに樂いなに」



お料理

その日は一日中レストランごっこをしました。開店準備から始まり、いよいよオープン直前、まとめて料理を担当していた Dさん(6才)が突然「おうちでもお料理したい!」と言いました。そこでお母さんもそのことを言うと、お母さんは笑顔で「いいよ...じゃ、ハンバーグつくろ!」「玉ねぎ切るかねアーレゴーグーレ(?)」と言いました。想像してみたいで幸せな気持ちになります。その日おうちご丼がハンバーグを作っていました。



おとうちよむすび

蝶巻びの「ひとつと二つか難しい」と言っていた Fさん(6才)。保育士がゆくりやるのを1回見てから練習すると、初めて「ちふわよむすび」ができるようになりました。「ばあちゃんはエプロン(?)あります!」

おはなづかく「はるこブック」では日常の様子をお伝えします。
はるこ日記 横断幕 カチッ(?) 2月24日(?)
2016春号 はいかがい?(?) 2月24日(?)